

## 令和5年度第11次千葉県職業能力開発推進検討会 議事録

1 日 時 令和5年10月24日（火）10:00～11:30

2 場 所 千葉県教育会館304室

3 出席委員（敬称略）

学識経験者	千葉職業能力開発短期大学校	校 長 紀 高志
	千葉県高等学校教育研究会進路指導部会	部会長 山本 昭博 (大網高等学校 校長)
事業主代表	千葉県職業能力開発協会	会 長 赤星 健二
	千葉県中小企業団体中央会	副会長 熊谷 正喜
労働者代表	日本労働組合総連合会千葉県連合会	事務局長 中島 正敏
	全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会 電機連合千葉地方協議会	事務局長 野田 泰造
行政関係者	千葉労働局職業安定部訓練課	課 長 鈴木 ひろ子

以上 出席委員7名

### 4 会議次第

- 1 あいさつ（高橋産業人材課長）
- 2 委員紹介
- 3 会長選出、副会長指名
- 4 議題  
第11次千葉県職業能力開発計画の令和4年度実績等について
- 5 その他

### 5 議題に係る検討の概要

#### ○事務局

以下について、各資料を用いて説明。

- ・第11次千葉県職業能力開発計画〔概要〕（資料1-1）
- ・高等技術専門校の再編・整備について（資料1-2）
- ・リスキリングへの支援について（資料1-3）
- ・第11次千葉県職業能力開発計画の目標に対する取組について（資料2）

#### ○中島委員

- ・資料2の「高等技術専門校の就職率」について、令和4年度は87.3%ということで、就職出来なかった方々もいるということだと思うが、そういった方々に対して、その後の支援等はされているのか。
- ・同じく資料2における「高校生の高等技術専門校の認知度」について、令和8年度の目標設定となっているが、途中の経過は把握しないのか。

## ○事務局

- ・就職できなかった方々については、基本的に厚生労働省の調べで、修了後3ヶ月までは就職状況の把握を求められており、本人と連絡を取っているほか、希望があれば企業との繋ぎを行うなどの就職支援を行っている。ただし、ここでいう就職率について、高校における就職率の考え方とは異なっており、高校は就職希望者が分母となっているのに対し、ちばテクは、職業訓練による就職が前提のため、修了生全員が分母になるので、大学や他の専門学校への進学希望者についても分母に入っている。高校などのパンフレットで、「就職率100%」と謳われているが、ちばテクにおいては難しい状況。
- ・認知度に係るアンケートについては、計画策定のための基礎調査ということで5年に1度行うものであり、次の調査も同様のスパンで考えていたが、テクノスクールに校名変更したことや施設整備を進めていることなど、近年には無い取組を行っていることを考慮し、どのような成果があるのかということには気になるところなので、途中経過の把握については考えていきたい。

## ○山本委員

- ・就職率について説明があったが、そうであるならば、数字だけでなく、資料にも補足した方が良い。

## ○野田委員

- ・資料1-1の基本方針3においてオープンキャンパスの記載があるが、どちらかという受け身の取組であり、ニーズの問題もあるとは思いますが、小中学校や高校へ出前講座を行うのというものは如何か。
- ・資料1-2の「高等技術専門校の再編・整備」について、施設を綺麗にしたからといって人が来るかということではないと思うので、どのようにPRをしていくのか考えていく必要がある。
- ・資料1-3の「リスクリングへの支援」のうち、「企業人材リスクリング支援事業」について、ホームページでPRしてくということであるが、受け身ではなく、もし可能ならば、DMで直接企業にPRするといった手法を考えてみては如何か。また、「ちば企業人材スキルアップセミナー」について、具体的にどのようにPRしているのか伺いたい。
- ・資料2について、全体として、「成果と課題」を一目でわかるようにすると良い。
- ・「高等技術専門校の入校率」については、キーマンは進路指導の先生だと思っており、アピールやヒアリングを積極的に行っていくのは如何か。また、障害者雇用率の達成については、障害者雇用における企業の成功事例や職場活性化事例等をPRするのも良いのではないか。
- ・「高等技術専門校の認知度」にて、先ほどアンケートの話が出たが、技術や環境は1年で大きく変化していることもあり、それに伴い、ニーズも大きく変化していることから、できれば毎年、費用を掛けずアンケート調査は行った方が良い。

## ○事務局

- ・出前授業について、小中学校への対応は行っていないが、旭高等技術専門校においては、近場の高校に出向いて、進路選択の一環として職業体験を行ってもらうということは実施している。
- ・「高等技術専門校の再編・整備」に係るPRについて、今まで、施設がそもそも古いということもあり、そのようなPRは行ってこなかったところであるが、資料2の「高等技術専門校の入校率」に記載のとおり、現在、ちばテクホームページのリニューアル作業を行っており、その中で訓練科の紹介と合わせてPRを行っていきたいと思う。
- ・「企業人材リスクリング支援事業」に係るPRについて、当事業を行う前に、リスクリング支援に係る期待等について企業へのアンケートを実施したが、その際、経済3団体を通じてDMで行うことも検討したものの、会員企業数がかなりの数にのぼり、費用が掛かってしまうということもあって、経済政策課が行っているメルマガを通じて周知する形で実施したところ。しかし、そもそもメール自体使っておらず、紙媒体でないとなかなか対応できないという企業もあり、その辺の実態も踏まえてやり方を検討していきたい。
- ・「ちば企業人材スキルアップセミナー」については、年に1回、DMや商工会議所に協力をいただいてセミナーガイドを送付していたが、今年度は、新たに後期のガイドも作成し、年に2回送付することとしたところ。また、リピーター狙いとして、1度参加いただいた企業には、翌年度もセミナーガイドを送付している。
- ・「高等技術専門校の入校率」に係る進路指導の先生へのPRについては、次年度の定員等が決まった段階で、各校の職員と入校促進支援員が、今まで付き合いのある高校へ出向いているほか、入校選考毎に入校促進活動を実施している。
- ・障害者雇用については、障害者雇用に係る好事例集を作成しており、法定雇用率未達成企業等に配布して、障害者雇用の促進を図っているところ。

## ○赤星委員

- ・障害者雇用について、一般の企業が支援を受けるにあたり、どこに連絡したら良いかわからない。
- ・「高校生の高等技術専門校の認知度」の目標値について、30%以上にするとあるが、今の教育の実態として、進学率等も変化している中で、目標値の考え方が、今の文化や社会の実態に、どのように繋がっているのか気になった。
- ・「障害者実雇用率」について、事業者と障害者施設との会合を図っていかなくてはならない。実務者に展開され、具体化されていくことが望ましいと思う。
- ・当社では、産業振興センターの要請で、京葉工業高校への派遣や、職業能力開発協会におけるマイスター派遣等を行っている。産学官の具体的な連携を進めることが大切ではないかと思う。

## ○事務局

- ・障害者雇用について、法律で、民間企業では2.3%から段階的に引き上げられていくことになっており、障害者雇用を進めていかなくてはならない中で、実態として、障害者雇用が0の企業は、どのように業務を切り出して、障害者への対応をどうすれば良いかということが分からないといったことや、また、どこから始めれば良いのか、どこに相談すれば良いのかわからないということもあると思う。県では、県内16箇所に企業支援員を1名ずつ配置しており、企業への訪問等により、支援を行っている。
- ・高校生の認知度や入校率の向上においても、産学官連携は重要である。また、早めに職業意識を持っていただく必要があり、キャリア教育的なところもあるので、工業系高校と共同パンフレットを作るなど、教育庁とも連携して対応しているところ。

## ○熊谷委員

- ・「高等技術専門校の入校率」について、入校率の低下もあると思うが、せっかく入校しても、途中で退校してしまう人はどれくらいいるのか。

## ○事務局

- ・令和4年度では、6校全体で256名の訓練生に対し、189名が修了している。差し引き77名が未修了者ということになるが、うち、32名は就職退校者なので、残り45名が就職をしない中途退校者ということになる。

## ○熊谷委員

- ・256名中、45名が中途退校者ということで、結構いるなという印象。訓練科によって率が違うと思うので、一概には言えないと思うが、せっかく入ったのに途中でリタイアしてしまわないようにするのが大事であるということと、リタイアした後のフォローも重要である。
- ・リスキリングセミナーのPRについて、当社は千葉鉄工業団地組合に加入しているが、こういった組合に積極的に働きかけを行っていただくと、現実的かと思われる。ポリテクも年に1回か2回ほどPRのために会合に参加いただいている状況。ぜひ、そういったことをやっていただければ。もし必要があれば、中央会を通じて紹介いただければと思う。

## ○山本委員

- ・学校見学において、施設が古いのはマイナスである。今回、施設設備や名称変更等の売りがたくさんあるので、ホームページ等でのPRを手厚くした方が良い。
- ・在校生の生の声を如何に聞かせるかが入校生募集のポイント。生の声を聞かせるような場面があると良い。

## ○事務局

- ・訓練生の生の声については、旭校や市原校での学卒者訓練においては、カリキュラムで母校訪問を行っており、実際に、母校の進路指導の先生や部活の顧問の先生を訪問し、(学校にもよるが)後輩の方を集めていただいて、ちばテクに入校した感想を伝えてもらっている。

## ○鈴木委員

- ・資料2の「高等技術専門校の入校率」において、R5年度の主な取組として、県立工業系高校と共同パンフレットを作成とあるが、非常に良い取組だと思う。この共同パンフレットは、障害者校も含めたパンフレットということか。

## ○事務局

- ・含める予定である。

## ○鈴木委員

- ・そうすると、中高生やその保護者に向けてというところで、中学校の進路指導の先生や特別支援学校等で周知できれば良いのではないかと思う。工業系高校も地域によると思うが定員割れの状況と伺っており、双方でより良い周知ができれば良いと思う。
- ・県立高等技術専門校の認知度について、高校生だけでなく保護者や進路指導の先生に知ってもらうことが必要。普通高校に行く生徒が非常に多いと思うが、中学校の先生が、工業高校やちばテクをあまり認知できていないのではと個人的には思っている。
- ・民間企業の障害者雇用率について、企業見学や職場実習受入の記載があるが、大体年間で何件位あるのか。

## ○事務局

- ・今回、教育庁とともに工業高校のパンフレットを作成することになり、進路指導の先生へのPRもやりやすくなったのではないかと思われる。また、進路指導の先生へのPRについて、当課の支援員等がPRに周っているということも行っており、今後も連携して取り組んでまいりたい。
- ・障害者雇用率における企業見学や職場実習受け入れは、千葉労働局やハローワークと連携して行っており、令和4年度実績は、企業向けの企業見学会は14回開催、70社に参加いただいた。障害者向けの企業見学会は5回開催、37名の方に参加いただいた。職場実習受け入れについては、99社が職場実習を行い、111名の障害者が参加、このうち半数を超える63名が就職した。

## ○紀委員

- ・資料1-1の計画の概要にて、「ポリテク」の名前が出ているが、ポリテクは、高度ポリテクセンター、ポリテクセンター千葉、ポリテクセンター君津、ポリテクカレッジ千葉（成田キャンパス含む）の県内に4つの施設があり、それぞれの役割を担っているところである。こうした中で、当ポリテクカレッジ千葉については、学卒者訓練を行っている。
- ・ちばテクと同様に、入校促進については苦慮しているところである。
- ・オープンキャンパスについて、今年度から在校生の学生の声を高校生等に伝えることとし、受付から科の説明などを学生が前面に出て実施している。このことにより、参加して頂いた高校生や保護者の皆様は、より学校の雰囲気はわかって頂けると感じている。
- ・先日、成瀬政男氏の出身校である安房高校に伺った。成瀬政男氏は東北大学の名誉教授、職業訓練大学校の初代校長であり、職業訓練の理念を導かれた方。元々は機械工学の専門であり「歯車と私」と言う著書は有名である。『科学(知識)だけではなく、そこに技能と技術を結び付けることが必要である』ということをおっしゃっている方。千葉県がそのような職業訓練の理念を導かれた方の出身県であることを活用できる方策を検討出来たらよいと思う。成瀬政男氏が職業訓練を行う意義の一つとして「社会で生きる力を身に付けさせる」とおっしゃっていることもあり、入校してきた学生と、とことん向き合い接していくことが大事であり、きちんとした職業訓練を行って社会に送り出すことに尽きるとおっしゃっている。
- ・ポリテクもちばテクも職業能力開発促進法に基づく施設なのでコラボレーション出来ることがあればやっていきたい。ちばテクが当校の主催するポリテックビジョンへ参加頂くことも非常にありがたいと思っている。ただ、ポリテックビジョンを何のためにやるのかというと、広く一般に職業能力開発事業について知ってもらうことが目的であり、職業能力開発の魅力をどう伝えていけるかということが重要だと考えている。